

聞き取り調査 記録

調査実施日：平成23年8月22日（月）午前10時から11時半

訪問先：北林 良三さん宅 昭和6年6月生まれ。

妻、利恵さん 昭和10年11月生まれ

山女原在住

調査目的・調査結果の活用方法（H23 共通）

自然に感謝し、自然と仲良く暮らしてきた昔の人々の知恵を掘りおこし、未来に向けて語りついでいく活動の一環として、「山内の昔」を知っている方々をこども達とともに訪ねてまわり、主に「水と暮らし」についての聞き取りを行う。

調査で教えてもらった内容は、研究発表の形で、あるいはお芝居の形にして（例えばふれあいコンサートなどで）山内の内外に発表・発信していく。

調査員

こども：5人

大人：3人

記録（とくにまとめず話の順に記録）

調べ）昔の水と暮らしに教えてください

- ・夏は川で遊び卓った。大人の人がせき止めてくれた。
- ・うなぎ、むつ、どろばえ(あまご?)がいた。
- ・昔は、川の草を刈って牛のえさにした。川の草を刈ることで、川に生き物が多くいたのではないかな
- ・タイシがたくさんいたな。
- ・井戸掘りは昔の親たちはしたが、井戸の中は、石を積み上げて、水がうまく湧き出る工夫をした。
- ・何もかもの生活水が井戸からであったので、家の中に水かめ(つぼ)があって、そこから使う。井戸の水をくみ上げ、かめ(坪)に入れておくのは子どもの仕事であった。でも汚いものを洗うなどは、川の水を使った。
- ・雨が降らない時期が続き、やっと雨が降ったなと思ったら、村で「雨喜び」と称して皆が食べるものを重箱に入れ持ち寄り、宴会をする。

暮らしについて

・家には、牛がいて、家の中でも一番大切にされていた。農作業をするための牛であった。

また、鶏も飼っている家があり、卵をうめなくなった廃鶏も肉として食べた。

・食べるものは、畑のものが多かった。蛋白源は、卵と川の魚、兎も食べた。

・かまどは、オクドサンというものがどの家でもあり、現在のガスレンジ的な役割をした。焚きつけは柴。

電気について

・昭和 30 年以前は、家の中での明りは一つ、豆電球であった。家族は、一つの部屋に集まることがふつうであった。風呂もトイレも電機はない。

・多くのものが風呂にはいるが、風呂の汚いこともくらいから分からない。

皆が同じ農作業をいていたから、汚れは共通しているけどな・・・

・昭和 32 年～36 年くらいの中に、一気に電化製品が普及された。

便利な時代になったけど、一つの部屋に集まることが少なくなったのかな。

仕事

・夏は農作業であったが、冬はみのを作ったり、藁草履づくり、むしろを織る、縄を縫うなど仕事はあった。

・みのは、藁のコート、

・ヒノキがさ：日よけ、三角帽子なので、帽子より頭に密着せずに涼しい。